



国民の森林・国有林

中部森林管理局

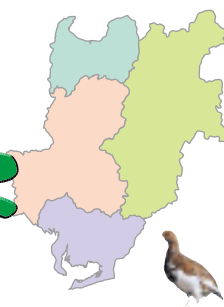
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



子どもたちに葉っぱの説明をする村松署長

●平成19年度の新企画

「親子で楽しむ森林散策」

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 各地で検討会を開催 P2～3 ○ 各地からのたより P3～4 ○ 風景紀行「三周ヶ岳」と「夜叉ヶ池」..... P8
---------	--



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

美しい森林に感動

【指導普及課】平成十九年度の新企画として、六月十七日、家族で森林や自然に親しんでいただこうと、飯山市関田山脈において「親子で楽しむ森林散策」を開催しました。

このイベントは、自然観察等を楽しみながら豊かな自然に親しみ学んでいただくとともに国有林野事業の様々な取り組みをPRすることを目的に、中部森林管理局と林野弘済会長野支部の共催で小・中学生の子どもを持つ親子を対象に募集したもので、県内から十四家族、四十二名が参加しました。

当日は、素晴らしい晴天の中、局、北信署、林野弘済会長野支部、関田トレイルを拠点に活動しているNPO法人信越トレイルクラブのインストラクターの案内により、北信署管内の関田峠を出発し、梨平峠を経由して羽広山集落まで、約四キロメートルのコースを四班に分かれ新緑の中、森林散策を実施しました。



子どもたちに説明をする山下係長

歩道やその周辺には、この冬の積雪が少なかったためか残雪がなく、各インストラクターから、動植物や関田トレイル等の説明を聞きながら親子でトレイルカードの内容をチェックし、ブナ林の自然を体感していました。

途中、前日までの雨の影響で昆虫たちもたくさん姿を現しており、体長十センチを超す大きなヤマナメクジにも遭遇したり、初めてみる昆虫等にも、おっかなびっくり触るシーンなどもありました。

森林散策の終点に当たる羽広山集落のブナ林では、キツツキのドラミングが聞こえるなど、日常生活ではあまりない貴重な体験に感動し、イベントを終了しました。

参加した子どもたちから「沢山の昆虫が見られて十分森林散策が楽しめた。」「前日までの雨が心配でしたが本当に天気が良く散策が十分楽しめました。」などの好評をいただき、楽しい一日となりました。

各地で検討会を開催

森林吸収源対策に向けて発進！

【愛知所】中部局主催の『森林吸収源対策会議』を受けて、当所では七月四日、森林吸収源対策現地検討会を瀬戸国有林で開催しました。

当所の場合、森林吸収源対策の対象とされる多くがクロマツ・アカマツ等が植



瀬戸国有林での検討会

栽された森林で、マツ枯れの被害も受け、手入れができず天然林化している森林が多いことから、これらの森林を今後どのように手入れをしていくかをテーマに現地検討会を実施しました。

検討会の対象地として、クロマツ三十割、アカマツ五十割、ヒノキ二十割が植栽された林分で、現在は広葉樹九五割、マツ類五割となっている森林を見ながら今後の対策を話し合いました。

現実林分は、広葉樹九五割というものの多種多様な樹種が生育しており、単に有用広葉樹・植栽木のみ残して整備することにはならないことから、現実林分の配置等を重視しつつ、里山づくり的な施策を実施することで一定の方向付けを行いました。

今までのスギ・ヒノキ一斉林の手入れとは異なることから、請負業者にどのような作業指示をするのか等々の意見もありましたが、モデル林を示しながら作業をもらうこと等も考え、より事業がスムーズに進むような方向についても検討を行いました。

今回の検討対象となったアカマツ等植栽森林の大部分は、同時に森林と人との共生林（森林空間利用タイプ）風致探勝ゾーンや観察林へ機能類型がされている森林で、今後整備が進めば、より多くの方々に親しんでもらえる森林へと生まれ変わることが今から楽しみです。

岐阜県と治山事業で民有林連携

特定流域総合治山事業で

現地検討会

【飛騨署】七月十一日、飛騨市古川町黒内地内ふくろ洞支溪地区において、岐阜県飛騨農林事務所と特定流域総合治山事業に向けた現地検討会を開催しました。

ふくろ洞支溪地区は、平成十一年の十六号台風で民有林・国有林ともに大きな被害を受け荒廃した溪流で、地元から早期の復旧が要望されておりました。

当区域は下流部が民有林上流部は国有林となっており民・国が緊密に連携し、一体的かつ計画的な治山対策を実施することで効果的に、また早期の復旧を目指すものです。



現地検討会の様子

当日は、当署治山課及び農林事務所森林保全課の七名が参加し、小雨の降るなか、ふくろ洞支流上流部の民有林・国有林の現地確認をするなど、より効果的な治山事業を実施するための方法についての活発な意見交換を行いました。

意見交換では、こういった事業の検討の外に技術的課題等についても積極的に連絡調整を図りながら飛騨地域における治山事業を通した「美しい森林づくり」に取り組んでいくことを話し合いました。

各地からのたより

森林の働きや大切さを学ぶ

森林教室

「名古屋事務所」名古屋事務所では五月上旬から六月中旬にかけ、定光寺自然休養林内において瀬戸市内及び名古屋市内の小学校十五校に対し森林教室を行いました。

学校からの森林教室の要請も年々増え、今年度は五年生を中心に千名を超える小学生が森林教室に参加しました。

実施内容は学校の要望により異なりますが、

一、尾張森林官による自作のイラストや模型等を使った「森林の働きや大切さ」の講話。

二、指導普及グループの女性職員による

「森林からの贈り物」をテーマとした紙芝居。

三、土を踏みしめ、木に触れながら樹木の勉強や森林の機能について学ぶ森林散策。

四、ヒノキの間伐材を利用した木工クラフトや丸太切り体験。

五、自然のものを題材に「木の葉のカルタ取り」や「フィールドビンゴ」などのネイチャーゲーム。

六、ドングリや、木の実を使った鑑賞炭づくりや、割り箸での炭づくり。

などの内容で生徒が親しみやすく楽しく学んでもらえるプログラムとしました。

これまで、森林教室に参加した生徒からは「森林の大切さが分かった。」「自然を守っていきたい。」「木の良さが分かった。」などの感想が寄せられ、森林とふれあうことにより、少しでも自然や森林に関心や興味を持つてもらえれば幸いです。



森林教室、みんなでたのしんで！

森林ふれあい講座

『木曾ヒノキ備林の散策』と『ゲンジボタルの観賞』

「名古屋事務所」六月二日、第二回森林ふれあい講座「名古屋城本丸御殿伐採跡地と木曾ヒノキ備林を散策しよう」を名古屋市の熱田生涯学習センターと共催で開催し、抽選で選ばれた二十名が参加しました。

当日は、東濃署の笹岡署長の案内により木曾ヒノキ備林の歴史や斧を使った古来からの伝統的な伐採方法「三ッ紐切り」の説明などを受けながら、伊勢神宮の式年遷宮、名古屋城本丸御殿用資材の伐採跡地などを見学しました。



「三ッ紐切り」を説明する笹岡署長

普段目にするのでできない雄大な天然林と、ヒノキの香しい森林のなかで気持ちのよい一日を過ごしました。

また、六月十六日には、第三回森林ふれあい講座「蛍の話とゲンジボタルを観賞しよう」を定光寺自然休養林に隣接する「定光寺はたるの里」で開催し「一度子どもにホタルを見せてやりたい。」という家族連れなど三十九名が参加しました。

はじめに加藤「はたるの里の会」会長から、蛍の生態や里山の環境保全の大切さなどについての話を聞きました。

あたりが暗くなると少しずつゲンジボタルが飛びはじめ、暗闇につつまれた八時頃には幻想的な光の舞に参加者は見入っていました。

シテイ・フォレスターが

オオバコの除去作業

「飛騨署」飛騨署の第一回名古屋シテイ・フォレスター事業が六月二十三日に行われ、天生国有林（天生県立自然公園）でオオバコの除去作業を実施しました。

この取り組みは登山者の増加に伴い天生湿原等の貴重な自生種の生育を妨げるオオバコの繁茂が進んでいることから、自生種の保全を目的に一昨年からはシテイ・フォレスター事業として行っており、今年は特に繁茂が著しい登山道入口から天生湿原にかけて行いました。

梅雨のさなかで前日は国道が通行止めになる程の大雨でしたが、当日は、梅雨とは思えないような青空で、名古屋市の

隊員を主として愛知県、富山県、高山市の外遠く高崎市からも参加され総勢三十四名の隊員と七名の職員での作業となりました。

また、午後からは湿原とブナ原生林の自然散策を行い、ブナの幹に残る熊の爪跡の説明に驚いたり、初夏の木漏れ日の中で豊かな自然を満喫する一日となりました。

取り組みには新聞二社の取材もあり、新聞記事を見た市民から「都会の人たちがこんなやつてくれているのに地元の人としても協力したい。」といった電話があるなど思わぬ反響があったほか、参加された名古屋市の隊員からは「美しい森と皆様に元気をいただいて帰りました。」と礼状が届くなど、シテイ・フォレスト事業の成果を感じました。飛騨署の第二回は、十月に御岳方面で実施します。



熱心にオオバコを除去する隊員

地元中学生が森林について学ぶ 「出前授業を開催」

「指導普及課」中部森林管理局では、将来を担う子供たちが体験活動等を通じて、生活と環境と森林との関わりについて学べるよう、教育関係機関等と連携しつつ森林環境教育を推進しており、本年度の新たな取り組みとして、地域の中学校等を対象とした「出前授業（森林教室）」を各署等で取り組んでいます。

木曽署では、「出前授業」を五月十八日に木祖中学校、六月二十九日に上松中学校で行いました。

上松中学校では総合学習「ひのきの時間」の中で「上松の森林」について研究を希望した一・二年生十名を対象に授業を行い、上松町における森林の現状や森林の役割、木曽森林管理署の仕事の内容等について、パンフレットやホワイトボードを使って説明しました。

生徒たちは、熱心にメモを取り、木曽谷は九割以上が森林で占められていることや、森林には様々な働きがあることに大きな関心を寄せていました。

また、指導普及課では、七月十日に、長野市の櫻ヶ岡中学二年生一七三名を対象に出前森林教室を開催しました。

櫻ヶ岡中学では、七月下旬に乗鞍岳登山と上高地ハイキングを予定しており、この事前学習として森林教室の希望があり、普及課職員五名が対応しました。



上松中学校の出前授業

一時限目は、全生徒を対象に、森林の働きや現況、地球温暖化対策の話のほか乗鞍岳や上高地の自然等についてプロジェクターを使って説明を行い、森林の大切さを学びました。

二時限目は、五クラスに分かれて、輪切りと小枝を使ったネームプレート制作を行い、生徒は思い思いのアイデアでプレートを完成させ、満足そうに笑顔を見せていました。

今後も地域の出前授業を通じて、身近な自然、森林・林業の大切さについて再認識してもらえよう更に取り組んでいきたいと考えています。

ファミリー・フォレスト・ガーデン 「ブナの郷カヤの平の森」

「国有林野管理課」ファミリー・フォレスト・ガーデンは子どもから高齢者まで、家族や友人同士など小グループで、自由な発想で自然とのふれあいを楽しみながら森林の中で過ごしていただくため、国有林を小面積に区画し、三年間の利用期間（一回限りの更新が可能で最長六年間）で一定の使用料で貸し出す事業です。

当事業は北信森林管理署管内の「カヤの平自然休養林」において、平成十二年度から「ブナの郷カヤの平の森」の愛称で十八区画を設定し実施しております。

今年度は、平成十八年度末で十二区画が利用され六区画が利用されていないことから、新たに利用者の募集をマスコミを通じて行つたところ予想を上回る三十五名の申込みがありました。募集した六区画総てで競合したことから七月九日に応募者七名が見守る中抽選会を実施し、当選者を決定しました。

来年度以降も自然とのふれあいの場を提供していくとともに、利用者との交流会等の機会を通じて親睦を深めることにより、開かれた国有林の情報発信に努めて参りたいと考えております。



抽選会の様子

実験林・試験地等紹介



「森林技術センター」岐阜県下呂市小川長洞国有林のパイロットフォレスト（現小川長洞実験林）は、種々のスギ品種を一箇所に植栽して展示林とするともに、当地方に適合した品種を選択する基礎資料を収集することを目的として昭和三十九年（一九六四）、に設定されました。

代表的なスギ品種として、林木育種場で養苗された鱈ヶ沢スギ（青森）、遠野スギ（岩手）、鳥海ムラスギ（秋田）、桃洞スギ（秋田）、本名スギ（福島）、村松スギ（新潟）、飯山スギ（長野）、立山スギ（富山）、魚梁瀬スギ（高知）の全九品種が総当たり三千本の割合でⅠ～Ⅲ号試験地（各一畝）に植栽されており、それ以外の箇所には地スギとして、旧下呂営林署管内で養苗されたマシタスギ、タテヤマスギ、アジマノスギ、イトシロスギ（福井系、岐阜系）が植栽されています。

調査は、植栽の翌年から下刈完了時まででは毎年、十年以後は原則五年毎に生長量を調査し、主伐に至るまでの生長度合、形質のほか施業経過が記録されてき

ました。

試験地内のスギは平成十六年に林齢四十年で、平均胸高直径二〇・六センチメートル、平均樹高一六・一メートルとなりました。場所により生長の差はあるものの樹高を比較してみると、飯山スギ、魚梁瀬スギが良好な生長をしており、当地に適した品種としての指標になるものと思われます。

当試験地は、青森県から高知県に至る天然スギが一箇所に植栽された、スギの遺伝資源として貴重なものであり、全国の代表的なスギ品種の保存と展示のため、間伐等の必要な整備を行い適切に管理していくこととしています。

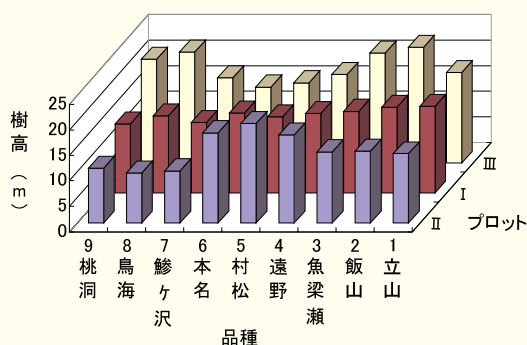
所在地・岐阜県下呂市

小川長洞国有林1114い林小班

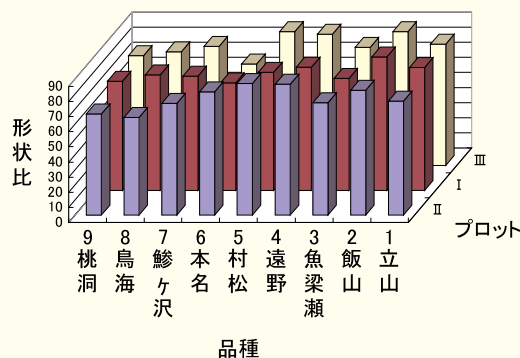


試験地の現況

場所による樹高の違い(40年生)



場所による形状比の違い(40年生)



行事・会議等の予定

◎ 森林計画現地検討会

8月7～8日 南信署管内

◎ 名古屋シティ・フォレスト事業

8月3日 木曽署

◎ 森林ふれあい講座

8月26日 愛知所管内

◎ 教職員森林環境教育研修会

8月3日 木曽署管内

8月7日 東信署管内

8月9日 愛知所管内

おぐやみ申し上げます



故出浦由紀夫氏

東信署総務課総務係
農林水産技官

出浦由紀夫氏（四十一歳）は七月七日にご逝去されました。

同氏は、昭和五十九年長野局治山課に採用され、上松署、大町署、南木曽署、長野署、伊那署、岩村田署、白田署、東信署に勤務し、これからの活躍が期待されていました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成十九年度永年勤続職員表彰式

平成十九年度中部森林管理局永年勤続職員表彰式が行われ、小緑局長から一級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者に対し、永年にわたる国有林野事業職員としての勤労を称えるとともに、精勤章の賞状が授与されました。

精勤章受章者は次の方々です。

◇一級精勤章

(勤続年数三十年以上)

技	小緑 直幸 (局長)
事	吉原多恵子 (職員厚生課)
技	菊池 洋二 (国有林野管理課)
技	河崎 則秋 (治山課)
技	柴山 健二 (名古屋事務所)
技	大野 裕康 (〃)
技	那須 正彦 (愛知所)
技	加藤 元之 (富山署)
技	山田 昭仁 (〃)
元技	石山 進 (元富山署)
技	松島 利夫 (北信署)
基	小林 元由 (〃)
基	松本 正俊 (〃)
基	小林 幸彦 (〃)
基	新津 康雄 (東信署)
元基	竹内 治男 (元東信署)
基	海瀬 忠明 (東信署)
技	佐光 仁 (南信署)
基	山田 米男 (〃)

◇二級精勤章

(勤続年数二十年以上)

基	山内 和幸 (木曽署)
基	浅野 光直 (〃)
基	橋本 光男 (〃)
基	上田 勝美 (〃)
基	北原 典孝 (〃)
基	杉村 実 (〃)
基	伊藤 勝 (〃)
基	木下 利春 (〃)
基	田方 幸市 (〃)
技	鈴木 和雄 (南木曽支署)
事	清水 岳志 (〃)
元基	阿征 修一 (元南木曽支署)
基	茶原 良平 (南木曽支署)
基	下島 秀一 (南木曽支署)
基	岩田 文春 (南木曽支署)
基	下條 廣一 (南木曽支署)
基	池田 吉孝 (南木曽支署)
基	金城 義教 (南木曽支署)
基	久保 久二 (南木曽支署)
技	植村 正彦 (飛騨署)
技	前田 和彦 (〃)
技	上島 昌弘 (岐阜署)

四十一名



題 名 森と共に
中学生部門 局長賞
小島 友紀さん

絵画コンクール 平成十八年度 局長賞作品

技	山本 通明 (中信署)
技	百瀬 厚 (木曽署)
基	青島 雅俊 (〃)
技	古畑 輝雄 (南木曽支署)
基	小幡 豊 (〃)
技	橋本 圭介 (岐阜署)
技	大坪 堅二 (〃)
技	軒端 信司 (東濃署)
技	原田 昌弘 (〃)
基	安江 等 (〃)
基	原 信弘 (〃)

十四名



題 名 動物のすみか されいな森林
小学校高学年部門 局長賞
中村 俊介くん

森林の絵画コンクール作品募集!

— 幼児及び小・中学生の皆さん! —

森林に対する思いを描いてみませんか。“あなたがイメージする「美しい森林」・あったらいいなこんな森林・つくってみたいこんな森林” そんな夢のある森林を描いてみませんか。

◆森林の絵画コンクール作品募集要領

1 応募に当たって

- (1)テーマ：①あなたがイメージする「美しい森林（もり）」
②森林へ行った時の楽しい思い出
③「こんな森林があったらいいな、こんな森林をつくってみたいな」という夢のある絵とします。
- (2)応募作品：4つ切りサイズ以内の画用紙に、クレヨン、水彩絵具、色鉛筆又はボールペンで描いた未発表の作品とし、応募点数に制限はありません。
- (3)応募資格：幼児及び小・中学生とします。
(幼児、小学生低学年(1～3年生)、高学年(4～6年生)、中学生に区分)
- (4)応募方法：応募票に必要事項を記入し、作品と一緒に送付下さい。
なお、作品は折れ目が付かないようにして下さい。
応募票は、ホームページからも入手できます。ホームページアドレス：<http://www.mori758.go.jp/>
- (5)締 切：平成19年9月14日(金)
- (6)応 募 先：名古屋市熱田区熱田西町1-20 中部森林管理局名古屋事務所
「森林の絵画コンクール係」宛(TEL052-683-9206・IP050-3160-6660)

2 入賞者の発表と表彰

入賞作品の発表は10月上旬とし、入賞者には文書等でお知らせします。
幼児、小学生低学年(1～3年生)、高学年(4～6年生)、中学生の4部門とし、各部門の入賞作品は、中部森林管理局長(金賞)、中日新聞社賞(銀賞)、中部日本治山治水連盟賞(銅賞)各1点及び中部森林管理局名古屋事務所長賞(佳作)2点とします。
なお、表彰式については、別途入賞者にお知らせします。

3 作品の取扱い方法

応募作品の著作権・版權は、中部森林管理局・中日新聞社・中部日本治山治水連盟に帰属するものとします。
主催／林野庁中部森林管理局名古屋事務所・中日新聞社・中部日本治山治水連盟
協賛／ぺんてる株式会社

森林の絵画コンクール応募票

森 林 の 絵 画 コ ン ク ー ル 応 募 票												
題 名												
フリガナ 氏 名										性別 (男 ・ 女)		
保護者氏名										年齢 (歳)		
住 所												
電 話		()										
部 門	幼 児			小学生低学年			小学生高学年			中学生		
	年小	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

※性別・部門欄は、該当する事項及び数字を○で囲んで下さい。



山間に満々と水をたたえる夜叉ヶ池

四季の折々の美しい風景
「三周ヶ岳」と澄み渡った池「夜叉ヶ池」

岐阜県立自然公園

ふう けい き こう
風景紀行
岐阜県立自然公園
三周ヶ岳と夜叉ヶ池
27
岐阜森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

【岐阜署】滋賀・福井の県境までは、揖斐川源流の山とよばれ、三周ヶ岳（二九二メートル）はその最も奥深いところに位置している。視界が良ければ北アルプスの槍ヶ岳まで見渡すことができ、大展望を楽しめます。

「夜叉ヶ池」は、岐阜県と福井県の県境、標高一〇九九メートルに位置し、ブナの原生林に守られながら、静かに満々と水をたたえています。別名を「雨乞の池」ともいい、その昔、干ばつに苦しめられたある村の娘・夜叉姫が雨乞のため、池に身を投げて村を救ったという伝説があります。

春には木々の若葉や草花、秋には燃えるような紅葉に彩られ、四季折々の変化を見せてくれます。

夜叉ヶ池周辺一帯は、国内希少野生動植物種のヤシヤゲンゴロウ、日本海側特有のブナ林等が見られることから、保護林を設け、保護・保全しています。設定された保護林を連結することで、国指定特別天然記念物のニホンカモシカ等の動物やその他の動植物の移動経路を確保し、個体群の交流を促進することにより、種の保全や遺伝的な多様性の確保を進め、より広範囲で効率的な森林生態系の保護・保全を図ることを目的に、「越美山地・緑の画廊」を設定しています。

特に、夜叉ヶ池にしか生息しないヤシヤゲンゴロウの繁殖や生息環境を保全するため、夜叉ヶ池を含む周辺の森林一六



三周ヶ岳の頂上

紛を「夜叉ヶ池水生昆虫生息地保護林」に指定し、適切な保全に努めています。三周ヶ岳・夜叉ヶ池等へは、登山口より最初沢に下り、それから登り下りの繰り返し、その後、急な登りとなりますが、ブナ林に入る頃には平坦な道になります。一時間余りで夜叉壁が見えはじめ、幽玄の滝、昇龍の滝を見ながらさらに急な登りが続き、登りきると夜叉ヶ池が見えてきます。



黒壁の夜叉壁



夜叉ヶ池より南方面の登山道（三周ヶ岳方面）

◆アクセス
名神高速大垣ICから揖斐川町坂内に入り、川上林道を経由して3キロ、約1時間40分。